

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3290100167		
法人名	医療法人 祐和会		
事業所名	グループホーム ユーミー ひかりユニット		
所在地	松江市津田町313番地		
自己評価作成日	平成28年1月20日	評価結果市町村受理日	平成28年3月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.jp
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 コスモブレイン		
所在地	松江市上乃木7丁目9番16号		
訪問調査日	平成28年2月4日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域社会との絆を大切に考え、地域の行事には積極的に参加して、地域の方との交流を図っている。交流を通じて輪も広がりを見せ、オルガンやフルート、琴の演奏会やフラダンス、日本舞踊等の鑑賞会、ハンドマッサージなど様々なボランティアの方に来て頂ける様になり、入居者様に非日常感を感じて頂く機会を多く持つことが出来るようになった。また、外出にも力を入れており、春の花見や秋の紅葉狩りなど季節を感じられる外出の他、その日の希望に応じて買い物や外食など臨機応変な対応を行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

中心市街地に位置し買い物や催し物などで利用できる多くの施設が近い為、その利点を生かして外出の機会をできるだけ増やすように取り組まれている。また、開所から地域との交流にも力を入れてきており、今年度も多くのボランティアとの交流が利用者の笑顔に繋がっているように見受けられる。管理者を中心に職員間のチームワークも良く、ホールからは歌声や、笑い声が多く聞かれていた。運営推進会議での家族や、地域の方々を対象とした試食会や研修会の開催、また利用者の理解に繋げるためのシートの作成など、前向きな取り組みは多いに評価できる。今後に於いても地域に開かれた施設として交流を重ね、災害時にもお互い協力し合えるような関係が築けるよう、取り組んでいただきたい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員が常に目にする場所に理念を掲示することで意識付けを行うと共に、職員ミーティングの場において、全員で理念の確認を行い、理念に基づいた行動の実践に取り組んでいる。	経験年数の有る職員が多いため、頻繁に行うこともないが、年度当初の研修の中でも取り上げたり、職員ミーティングの場でも理念を確認することで全員が共有するようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の祭りや公民館活動など、行事には積極的に参加している。また旬の野菜の差し入れなどの支援も継続して頂いている。	地域の公民館で毎月1回行われる茶話会に参加したり、運動会、文化祭、敬老会、夏祭りなど、できるだけ交流の機会を増やすようにしている。音楽関係や芸術関係のボランティア利用は多く、年々広がりつつある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地元小学生の『ふれあい町探検』学習や中学生の福祉体験学習などの受け入れを行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者状況や活動報告を行い、参加者と意見交換や情報交換を行う場となっている。会議の中で得た情報は日々のサービスに活かしている。また外部講師を招いての勉強会も開催している。	嚙下困難者の為のおはぎの試食会や、口腔ケアの講演会など、会議のテーマには工夫が見られる。家族関係者の参加はあまり多くないが、利用者の参加が多く地域の方々との交流の場ともなっている。ここでの状況を伝えることで、活発な意見交換が行われている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議への参加を通じ、現状報告を行い、助言を頂いたり、必要に応じて相談ができる体制が整っている。	市の担当や包括からは、毎回参加があり意見を得ている。電話で相談したり、直接窓口に出向き話をするなど、顔なじみで話しやすい関係が築けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内外の研修で理解を深め、言葉や行動を抑制しないケアに取り組んでいる。	色々な場面を想定したり、例を上げたりして施設内研修を実施している。施設は街中の交通量の多い場所にあるが、職員が気を付けることで玄関の施錠は行っていない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	定期的に施設内研修を開催し、理解浸透を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	毎年度勉強会を行い、職員の理解を深め、必要に応じ相談や助言が行えるように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明時間を設け、家族の不安や疑問点にも分かりやすく説明を行って理解が得られるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者自治会を定期的に開催し、要望や意見を出して頂く機会を持っている。また家族に対しては状況報告の便りを毎月送付する他、電話での報告や相談、面会時の報告や相談を通じて意見や要望を確認するようにしている。	利用者は自治会という形で意見を聞く場を持っており、数年間ずっと続いている。家族へは2,3か月に1回ユーミー通信を送ったり、様子を伝える便りも担当より月に1回送り、意見を得るようにしている。遠方の方にも電話や手紙で意見を求めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者や管理者は日頃から職員の意見や要望を聞くようにコミュニケーションを図り、互いに意見が言いやすいよう関係づくりを行っている。	管理者は人間関係がスムーズにいき意見が言いやすい環境づくりに配慮し、仕事以外の場所で食事会などの交流の機会を持つようにしている。女性が多い為産休に続き育休を希望する人も多いが、何とか対応するなど少しでも働きやすい職場をと考えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の状況に応じて、労働時間の変更を行うなど配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得のための支援制度があり、資格取得後は給与に反映される。外部研修には出来るだけ多くの職員が参加の機会が持てるよう勤務調整を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム部会や研修への参加を通じ、情報交換を行うようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に行う面談の場において、本人や家族、関係者が不安に思っている点や今後の生活に対する要望等を確認し、安心できる環境づくりが出来るように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学や相談の際に、家族の思っていることや不安に思っていることなどゆっくり話を伺う時間を設けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の状況や、本人や家族のニーズへの対応が難しい場合、事業所で出来る範囲を伝え、必要に応じて他のサービスについて情報提供を行うようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の場として、家事作業や趣味的活動を一緒に行い、互いに助け合い、日々の生活を寄り添いながら思いを共有できる関係を築けるよう取り組んでいる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族に外出付き添いを依頼したり、ホーム内の行事に家族を招いたり、家族と本人の距離が離れすぎないように交流の場を持つよう心掛けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や友人知人の来訪時にはゆっくりと過ごして頂けるよう配慮している。また、本人の希望する場所への外出は、家族の協力を得るなどして対応するようになっている。	地元の利用者には近くの公民館まで歩いて行き、馴染みの方との交流の機会を作るようになっている。実家や懐かしい小学校などへのドライブや馴染みの美容院を尋ねるなどの支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間関係や個々の性格を把握し、職員間で情報交換を行いながら、良好な関係が保たれるよう、雰囲気作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も本人や家族からの要望があれば相談に応じるほか、必要時には入居中の様子について情報提供を行っている。また、家族の了解を得て転居先への面会にも伺っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で何気なく口にされた言葉や呟きから本人の思いをくみ取れるよう努めている。把握が困難な場合には、家族の意向を確認したり、本人の表情や行動から訴えを推測し、本人目線で考えるようにしている。	日頃テレビや新聞、広告などを見ながら何気なく口にする言葉や意見を尊重するようにしている。生活歴を聞いて思いを推測したり、したいことを中心に問いかけるようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に本人や家族、関係者から可能な限り情報を得るように努め、入居後も継続して情報を聞き取り、職員間で情報の共有ができるように取り組んでいる。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	寄り添い共に過ごす中で、個々の生活リズムや有する能力の把握に努めている。体調の変化やその日の状況などを申し送り、情報は全員で共有できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人への聞き取りやアンケートにより家族の意向や要望を確認し、職員間で協議した上で介護計画を作成している。	介護計画作成にあたっては、アンケートという形で意見を記入してもらったり、面会時や電話で意見を聞き担当者会議を開催している。フェースシートに似顔絵を描き、どうしたいかを利用者本人に記入してもらうなど工夫が見られる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ファイル、申し送り表、連絡帳などを活用し、情報を全職員で共有できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々変化する状況やニーズに対して、柔軟な対応が行えるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	福祉推進委員や地区の民生委員からの情報や助言を活用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望する医療機関において適切な医療が受けられるよう支援している。複数の医療機関との連携を図っている。	以前からのかかりつけ医を継続しており、職員付き添いで受診している。医療機関との連携があり夜間や緊急時の対応も可能になっており、家族関係者の安心に繋がっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の状態変化や異常発見時には速やかに看護師に報告を行い、指示を仰ぎ適切な対応が行えるよう体制を整えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には医療機関に情報提供を行い、入院中は面会時に状態確認をしている。また家族とも情報交換を行い、早期退院に向けて取り組んでいる。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化対応指針を説明し、事業所の方針を伝え理解して頂いている。実際の看取り期には段階ごとに家族との話し合いの場を設け、その都度意向の確認を行っている。	重度化に向けてはその都度話し合いの機会を持ち、意向を確認しながら主治医の対応が可能な場合には検討することとしている。今年度も職員全員で看取りケアに取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	蘇生法など講習の機会を設け、全職員で学習し緊急時に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を実施しているが、近隣住民の参加には至っていない。	年間計画を作成し、消火訓練や応急処置、水害や地震など災害別に行ったり、総合訓練としても実施している。地域の避難場所を確認したり、この施設の空いているスペースを災害時に使用するように考えている。	地域との関わりを増やすことで、災害時の支援体制が確立するように検討していきたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	毎年、プライバシー保護についての勉強会を設けている。日々のケアに際しても言葉かけの仕方など職員間で気づいた点は注意し合い、互いに意識付けを行うようにしている。	年度当初に研修を実施している。日頃は不適切な言動はないか、心をこめて挨拶や声かけをしているか、などお互い問いかけるようにし、気になることがあれば注意し合うようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が選択できるような声掛けを行い、自己決定が出来るよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その時々々の状態や、本人の希望や要望を優先し、柔軟な対応を行うよう心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お化粧をしたり、一緒に買い物に行き自分の好みの服や持ち物が購入できるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や調理の一部、片付けなど無理のない範囲で一緒に行うようにしている。献立には利用者の希望を反映し、食事は職員も一緒に摂るなど場の雰囲気作りを行っている。	野菜の皮むきなどの下準備や食器を洗うこと、台拭きでテーブルを拭くなど、できることを手伝ってもらうようにしている。食事の際は職員が間に入り声掛けしながら雰囲気よく食事ができるようにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量の記録や毎月の体重測定などを行い、状態の把握に努めている。咀嚼や嚥下状態に留意し、本人に合った食事を提供できるよう努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛けや見守り、介助など1人ひとりの状態に応じた援助を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、可能な限りトイレでの排泄が続けられるよう支援している。	トイレ誘導が必要な方が多い為、排泄パターンを把握して声がけしている。重度でオムツ使用の方は定期交換を行っているが、不快にならないように気を付けている。食事や運動で自然排便を促すような取り組みも行なわれている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝朝食時にはヨーグルトを提供している。こまめに水分補給を促したり、適度な運動を行える場を持つほか、状態に応じて腹部マッサージを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の希望されたタイミングで入浴して頂けるよう柔軟な対応を心掛けている。湯の温度や希望される入浴剤を使用するなど気持ちよく入浴して頂けるよう配慮している。	週に2から3回の入浴で、その都度意向を確認してゆっくりくつろげるように対応している。寝たきりの方も2人対応で浴槽に入れるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室のほか、リビングのソファなど自由に休息が取れるよう配慮している。室温や掛物調整のほか、アロマオイルの使用なども行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	写真付きの薬情報を個人ファイルに閉じ、処方のもので最新のものと入れ替え全職員がいつでも確認できるようにしている。服薬時には複数の職員で確認することを徹底している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者個々の、能力や得意な事苦手な事などを把握し、本人の楽しみや役割が継続できるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の希望に応じて外出できるよう努めている。親せき宅訪問などは家族の協力を得て実施している。また近隣のイベントにも積極的に参加している。	買いものやイベント会場など近くにいろいろ利用できる施設も多い為、その日の天候や体調に配慮してできるだけ外出の機会を持つようになっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出時の支払いは本人にしてもらうようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	事業所の電話は自由に使用して頂いている。個人で電話や携帯電話を所持されている方もあり、自分の好きな時に電話を掛けたり受けたりされている。手紙や年賀状などのやり取りもされている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日中の大半を過ごされる共用スペースは安全な家具配置を心掛けている。また季節を感じる壁面飾りや、花を生けるなど行っている。	中心市街地にあり交通量の多い道路にも面しているが、中は比較的静かで窓からは外の景色も見え明るい。壁には利用者、職員が一緒に作った作品が飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	その時々、自分の過ごしたい場所で自由に過ごして頂けるよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には馴染みの物を持ち込んで頂くようお願いしており、自分の部屋だと認識して居心地よく過ごして頂けるよう配慮している。	どの部屋からも外がよく見え明るく、三角形の出窓には花を飾ったり、鏡やソファやテレビなどが持ち込まれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の能力や状態に応じて、安全に自立して行動が行えるよう環境づくりに配慮している。		